

# 富士山北麓で夏に観察されたマヒワ

西 教生

## An observation of the Siskin in summer at the northern slope of Mt. Fuji

Norio NISHI

### 要 旨

2009年7月5日、山梨県南都留郡富士河口湖町船津においてマヒワの雄を2羽観察した。繁殖に関しては不明であるが、山梨県では冬鳥である本種が夏期に観察されたのは今回が初めてであると考えられる。

キーワード：夏期、富士山北麓、マヒワ

マヒワ *Carduelis spinus* は本州中部以北で少数が繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する（五百沢ほか 2004）。しかし、本州からの確実な繁殖の確認は、1985年に青森県において発見された2羽の雛の入った1巣（大八木 1985）であると考えられる。繁殖の確認された年には石川県で家族群の記録があり（美馬ほか 1985）、近年では愛媛県で夏季に観察されている（濱田ほか 2007）。本種は山梨県では冬鳥とされており（中村・依田 1977）、富士山においても冬鳥となっている（黒田ほか 1971）。筆者は、2009年7月5日に山梨県南都留郡富士河口湖町船津でマヒワの雄を2羽観察した。繁殖に関しては不明であるが、夏期の観察記録は本種の分布の変化を考えるさいに重要であると思われるため報告する。

### 観察日時と場所、形態

2009年7月5日（8:55～9:05, 晴れ）。山梨県南都留郡富士河口湖町船津（35° 27' N, 138° 45' E, 標高 1050 m）。観察距離は5 mで、8倍の双眼鏡を用いて観察した。環境は樹高約15 m～20 mのアカマツ *Pinus densiflora* およびカラマツ *Larix leptolepis* の林に面した道路。道路に沿ってマメザクラ *Prunus incisa* が植えられていた。

観察された個体は2羽ともメジロ *Zosterops japonicus* よりもやや大きく、頭と喉は黒で顔および胸は黄色、腹は白で脇には黒褐色の縦斑があった。背は黄緑色で、腰は黄色だった。嘴は桃色で上嘴の先端は暗褐色、大雨覆および中雨覆の先端、初列風切羽の基部は黄色だった。尾は凹尾で黒く、基部には黄色の斑があった（図1）。

### 種の同定

大きさや羽色、尾の形状から、観察された2羽はアトリ科 FRINGILLIDAE であると考えられた。日本で記録のあ

るアトリ科の内、上記の形態に該当する種はマヒワの雄しかいないため、今回観察された個体をマヒワの雄と同定した。

### 観察された行動および考察

観察された2羽はマメザクラで虫を採食していた。鳴き声は聞かれなかった。周辺を探索したが、2羽以外にマヒワは確認できなかった。黒田ほか（1971）や中村・依田（1977）によると、山梨県や富士山ではマヒワは冬鳥とされていることから、夏期の観察例は今回が初めてだと考えられた。しかし、観察されたのは雄のみであり、雌や幼鳥は確認できなかったため繁殖に関しては不明である。今後は富士山における繁殖期のマヒワの生息状況を調査し、繁殖の有無について調べる必要がある。

### 引用文献

- 濱田知宏・清水哲也・千々岩哲・牛島積広（2007）愛媛県久万高原町における夏季のマヒワ *Carduelis spinus* 群の観察記録. 日本鳥学会誌 56 (2) : 187 - 189
- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸（2004）日本の鳥 550 山野の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京
- 黒田長久・千羽晋示・由井正敏・中村司（1971）富士山地域の動物相（別冊－富士山総合学術調査報告書）. 富士急行株式会社堀内浩庵会（編）. 富士急行株式会社, 東京
- 美馬秀夫・時国公政・国盛孝昭（1985）能登半島におけるマヒワ *Carduelis spinus* 家族群の観察. Strix 4 : 63 - 65
- 中村司・依田正直（1977）山梨の鳥. 山梨日日新聞社, 山梨
- 大八木昭（1985）下北半島におけるマヒワ *Carduelis spinus* の繁殖. 鳥 34 : 66 - 67

Corresponding author : Norio NISHI  
E-mail : arisuinodoramingu@yahoo.co.jp



図1 夏期に観察されたマヒワの雄